

【戸塚区】令和3年第3回区づくり推進横浜市議員会議 議事録

開催日時	令和3年 9月 7日 14時 30分 ～ 16時 00分
場 所	WEB会議
出席者	<p>【座 長】 鈴木太郎議員</p> <p>【議 員：5名】 岩崎ひろし議員、坂本勝司議員、伏見幸枝議員、中島光徳議員、山浦英太議員</p> <p>【戸塚区：21名】 吉泉英紀区長、武井和弘副区長、飯野真理福祉保健センター長、立花千恵福祉保健センター担当部長、林聡土木事務所長、岸信行戸塚消防署長 ほか関係職員</p>
議 題	<ul style="list-style-type: none"> ・令和2年度 個性ある区づくり推進費 決算状況 ・令和3年度 個性ある区づくり推進費 執行状況 ・令和4年度 個性ある区づくり推進費 自主企画事業の取組方針
発言の 要 旨	<p>岩崎議員：コロナ感染症対応について、どういう点に留意して努力してきたのか。</p> <p>吉泉区長：区民の皆様に、感染症に関する正しい情報を、様々な媒体を使ってお伝えすることが一点。例えば、駅の近くに QR コードをつけて区役所のツイッターをすぐ登録できるようにしたり、広報よこはまでは楽しい話題からシリアスな感染症の話題まで幅広い話題を取り上げることにより関心を持ってもらう工夫をしているが、区民の皆様に区とつながっていただき、それにより感染症はもとより災害時の対応力も高めていく、そうした地域を作っていきたいという思いがある。ワクチン接種については、当初相当の混乱があったが、区民の皆様の声を聴くことができる最前線の現場として、デジタル媒体、紙媒体どちらでも様々な形で情報を知っていただけるよう努めている。</p> <p>また、内部体制については、一時は土日なく深夜まで対応しなくてはいけない状況になったが、感染症対策の仕事を止めることなく区民サービスの提供を継続していくため、全課による対応体制を作り、職員の健</p>

康を守りつつ、コロナ対策に取り組んでいる。

松本課長：陽性患者をできるだけ早く把握して、しかるべき医療につなぐ、日々の健康観察につなげていくことが一番重要だと考えている。

ワクチンについては、医師会はじめ関係者の皆様に多大なご協力をいただき他区に比べて非常にハイピッチで進んでいる。今後ともできるだけ早く多くの区民の皆様に接種ができるように努めていきたい。

岩崎議員：コロナ禍で生活保護の申請が増えたのか、また、当面の見通しをどのように捉えているのか。

佐藤生活支援課長：令和元年度と比較すると微増という状況。要因としては令和2年度に住居確保給付金等の改正があり枠が増えたことで第2のセーフティネットが充実したことが考えられる。しかしながら、コロナ禍の長期化により、自営業の方の廃業、非正規雇用の方がシフトに入れない方などの申請も目立ってきているため、引き続き注視していく必要があると認識している。区役所で行っているサービス以外にも国の支援制度なども含め、皆様困っている方の実情に応じて寄添ったケアができるよう努めている。

山浦議員：子どもを取り巻く虐待予防環境づくり事業について、戸塚区の児童虐待相談対応件数が何件あるか、この事業にある個別カウンセリングの周知はどのようにして行っているか。

上原こども家庭支援課長：令和2年度は283件で令和元年度の307件と比べると微減となっています。カウンセリング事業については、心配なケースのうち必要と判断されたものについて、専門家のカウンセリングにつなげている。

伏見議員：保育所地域子育てパワーアップ事業について、中止となった体験型防災研修がどういった内容だったのか。子どもを取り巻く虐待予防環境づくり事業について、啓発活動はしないのか。

金森学校連携・こども担当課長：昨年度の防災研修は、現場の保育士が、

地震があった時にとるべき行動について、実際に研究している方が研修をする予定でしたが、コロナ禍を受け、「地震いつもマニュアル」を各保育園に配付しそれぞれ研修を行った。今年度は、カエルキャラバンという取組を行っている NPO 団体を招き実務的な研修を行おうと考えていたが、コロナ禍が収まらない状況を踏まえ、リモートで体験に近い形で研修を行おうと考えている。

上原こども家庭支援課長：児童虐待防止の啓発活動については、11月の児童虐待防止月間で横断幕の掲出、3階区民広間でのパネル展、チラシの掲出などできる限りの広報活動をしたいと考えている。また、今年度は、小・中学生の子供に子供の権利を知ってもらい必要な時には相談ができるということを PR していきたい。また、DV についても虐待と関連があるので、若年世代の DV についても PR 等をしていきたい。

坂本議員：コロナ関係で、陽性者の区内分布のデータはあるか。

松本福祉保健課長：陽性者のデータは把握しているが、区内分布は特に作成していない。全域に幅広く分布している。陽性者の数が非常に多くなっていることもあり、まずは陽性患者の把握と医療や健康観察につなげることを第一に対応している。

坂本議員：今後のためにもデータを取ることも大切になる。分布だけでなく、感染経路の分析など、今後の感染対策ため、データを一つでも多く取れるよう取り組んでほしい。

次に、区役所の感染者はどういう状況は。また、どの程度リモートで仕事をしているのか。

甘粕総務課長：これまで陽性者が3名出ているが、職場内で感染が広がっている状況にはない。外部との会議等はかなりリモートで行われているが、テレワークについては窓口職場ということもあり難しい部分もあるが、少しずつ進めている。

坂本議員：今後の生活様式では、テレワークやリモートを業務に取り入れていかなければならない。よりよい業務体系を作ってほしい。

坂本議員：町内会の活動がほぼない中で、自治会に加入するメリットを感じなくなっている人も多い。もう一歩すすんで加入促進を図っていかなければならないと感じるが、どうか。

岩崎地域振興課長：行事はほとんどできていないが、ゴミ集積場所の管理など地域で協力しながらやらなければならないことも多い。こうした地道な活動を通じて地域の助け合いが大事だと見せていくしかないといった話を、地域の方からは聞いている。自治会・町内会の活動の仕方を含め、加入促進をすすめていきたい。

坂本議員：地域によって考え方に差があり、しづらいなかでも活発に活動しているところもある。ボランティア的な要素が非常に強く全員の参加は難しいが、コロナ禍でも、なるべく町内の人たちがつながる活動を区役所が中心となって先導してほしい。

次に、オリ・パラの関係で戸塚区からオリンピックとして参加された方はいるか。

岩崎地域振興課長：把握している限りだが、ソフトボールの清原選手、セーリングの飯束選手、サッカーの遠藤選手がいる。

坂本議員：世界で活躍する人たちを区民の皆様に知っていただくことも大切かと思うので、そうした視点で確認をお願いしたい。

坂本議員：区内の駐輪場の定期利用、待機の様子は。また、空き駐輪場への誘導はしているのか。

岩崎地域振興課長：駐輪場の定期利用は戸塚駅、東戸塚駅、舞岡駅の合計で自転車とバイクを合わせて6,595人、待機者は自転車で4,318人、バイクで565人、合計が4,883人となっている。駅周辺では全体で4,938の空きがあるが、例えば戸塚駅西口第10駐輪場では1,620人が待機しているなど、屋根があつて雨に濡れずに行ける場所などは他から移動希望者も含めて、非常に待機者が多くなっている。空いている駐輪場はあるので、なるべく空いている駐輪場を活用できるよう各駐輪場間でも

連携を図っている。

坂本議員：待機者に対してうまく誘導していただきたい。また、リアルタイムで空き状況が確認できるとよい。

次に、コロナ禍で執行できなかった予算が多くあるが、スクールゾーン対策として危険のある場所を即見直すなど、融通を利かせれば、区民にとって納得性のある予算の使い方にもつながると思うが、考えを伺いたい。

吉泉区長：緊急性の高いことに柔軟に対応することは、現場直結の区役所ならではの非常に大切な視点と認識している。

坂本議員：デジタルサイネージは、行政として様々な場面で活用ができるので、区でも検討いただきたい。区役所だけでなく、駅などの公共施設や商業施設など様々なところに設置すれば、災害時の行動抑制や安全な避難など様々な活用ができると思うが、どのように考えるか。

武区政推進課長：現在、区庁舎入口にサイネージを設けているが、さらなる広報強化のため拡充を予定しており、スポーツセンターにも設置する予定。民間施設については、今後調整が必要となるが、いろいろな広報物を設置させていただくなど取り組んでいるので、その中でデジタルサイネージの活用も検討していきたい。

坂本議員：デジタルサイネージは、リアルタイムに情報伝達ができるため、非常に有効な手段となる。どのような場所に設置すれば、区民に情報が伝達できるのかを含め、検討してほしい。

中島議員：地域防災拠点の訓練、スクールゾーン協議会、地区懇談会について開催状況は。

甘粕総務課長：地域防災拠点での活動については、今のところ3か所で実際の訓練を行う予定となっている。それ以外については、中止又は予定がたっていない状況。

岩崎地域振興課長：スクールゾーン協議会は例年33校で開催している。今年度は戸塚区内の要望なしが1校、対面開催が7校、書面開催が25校となっている。

武区政推進課長：地区懇談会については、18地区ある中、2か所で行うと連絡を受けている。

中島議員：大規模災害などに備え、今回を機会にリモート等で開催できないか、どうしたらできるのかを検討できるよう、区は取り組むべき。

次に、交通安全啓発活動の安全教室について、特に小学校1・2年生にとっては非常に重要なこと。27校中11校実施とあるが、交通安全に関しては、開催はできなくても、どういう形で伝えていくか、できることはないか検討していただきたい。

岩崎地域振興課長：令和2年度に交通安全教室が全市的に開催できないとあった時から課題として認識している。そのため、道路局や警察、交通安全協会が作成した、小さい子供が見ても楽しく学べる動画などを区役所ホームページにリンクを掲載し、Twitter等で発信することにより親御さんとお子さんが家庭で一緒にみてもらえるよう取り組んだ。

令和2年度の後半にはコロナが一段落し交通安全教室が行われるようになり、今年度の春先にはいくつかの学校で交通安全教室を開催しているが、できていない学校もあるため、昨年度から引き続き動画でのPRのほかにも、この状況下でどういったことができるのか、来年度予算に向けて新しい手法も検討していきたい。

中島議員：区のTwitterに投稿しているワクチン接種の最新情報や予約残り枠数等は、各病院に確認しているのか。

武区政推進課長：区では個別の医院の接種状況については把握していないため、集団接種会場である、スポーツセンター等の予約状況を投稿している。

中島議員：全体でワクチン接種のパーセンテージを上げるには、受けないもしくは受けたくない、若いから打たなくて大丈夫と思っている人をど

う接種につなげていくかが非常に重要だと思うが、考えを伺いたい。

甘粕総務課長：国でもワクチン接種をした人が証明を持っていれば集まって会食ができるみたいなことを今後考えていくという話があるので、そういう情報を捉えながらワクチンの有効性やメリットをわかりやすく広報していくことで、接種を進めていければと考えている。

中島議員：今後、接種率を上げるため、国や市の経済局を中心に検討がなされると思うが、区としても、事前にそうした情報を集めたり、商店街連合会に意見を伺うなど、接種率が伸びない時の区としての方策を検討しておいてほしい。

最後に、予算の執行について、令和3年度の区づくり推進費の現在の執行率が63.2%だが、融通が利く利かないはあると思うが、最大限活用すべき。年度後半に向けて予算の執行について考えを伺いたい。

吉泉区長：貴重な税金としてお預かりしている個性ある区づくり推進費の予算であるので、区民の皆様喜んでいただける、区民の皆様の地域活性化のために使っていくことを大前提に取り組んでいく。執行については、目標としては全額、なおかつ有効に使っていくということでやってきているが、その上でどういう気持ちでやっていくかは、やはり答えは現場にあると思っている。地域の様々な区民の皆様、団体の皆様をはじめとして、本当に今コロナの中で困っている、これが足りない、助けてほしいという声が聞こえてくるので、そうした声をきちんとキャッチして、行政として横浜市全体の中で区役所としてやるべきものを選別しながら、執行に結び付けていく取組をすすめていきたい。

岩崎議員：内水ハザードマップについて、何部印刷したのか、また配布は完了したのか。また、対象世帯がそのマップの重要性を認識し活用できるよう、どのように取り組むのか。

甘粕総務課長：内水ハザードマップは、局から1500部がすでに届いていて、区役所の窓口で配布している。今後、区として新たに6000部印刷し、局から来た1500部と合わせて7500部を窓口で配布する。また、ホームページ等でも見られるようになっている。対象の地域になる方への

広報・周知については、内水ハザードマップだけではなく、ほかの風水害全体を併せて、避難の考え方やマップの使い方等を広報していく。

岩崎議員：住み続けたいまち・みちづくり推進事業について、戸塚駅東口は時間をかけて改修工事が行われているが、事業の全体像を示すものがない。相当の事業費を投入し、区民に注目されている事業であるので、完成イメージや進捗状況を区民に伝える工夫をしてほしい。

武区政推進課：住み続けたいまち・みちづくり推進事業については、平成31年2月に全体の計画をとりまとめ、その進捗状況は、毎年12月か1月に協議会で地域の皆様や検討メンバーの方々に説明している。また、区連会でも報告している。その他にも、個別事業については広報よこはま等でお知らせしている。Twitter、ホームページ等を活用した広報の強化を図っているので、そのなかでも進捗状況をお知らせしていきたい。

岩崎議員：多くの方が利用する駅なので、現場で視覚的に伝える工夫をしてほしい。

鈴木議員：住み続けたいまち・みちづくり推進事業に関連して2点。

戸塚駅西口では交通社会実験を行い、今後、駐停車禁止と区役所の下
のロータリーの有効活用を検討することになると思うが、ロータリーが
渋滞していると思われる。駐車禁止と併せてロータリーの渋滞をどうい
うふうに捉えるかが新たな課題になってくると思うので検討をしっかり
していただきたい。

次に、東口について、現実的に可能な範囲でバリアフリーを図ってい
るが上下の移動が難しい。もっと工夫しないといけないと思う。ハード
面でバリアフリー対策はできないという結論を出したのであれば、ソフト
対策としてもう少し案内をしっかりとできる優しさが需要ではないか。

最後に、今回この会議をオンライン、ペーパーレスで行っているが、移
動時間がかからないことも含め、コロナ後にも繋がる取組。市民との接
点ももちろん、市役所全体の中でのやり取りをオンラインに移行してい
くことを、戸塚区役所が率先してやっていただきたい。

備 考	
-----	--